編集後記

『和光経済』第53巻第3号は，伊東達夫教授と上野哲郎教授の御退任記念号である。伊東先生は40年，上野先生は30年，本学の研究と教育の発展にご尽力いただいた。

本来であれば，関係者が一堂に会した場で，両先生からご挨拶を賜るところだが，2020年度は新型コロナ対策で通常の会合を持つことがままならかった。そこで，今回特別にご退任の両先生からご挨拶文を賜った。この場を借りて，和光経済編集委員会一同からも感謝を申し上げたい。

本号を編集するにあたり，思い出されたのは，いまは亡き上野正男先生の言葉であった。念のために記すと，上野正男先生は和光大学創立の1966年に経済学部の助手となられ，その後，助教授，教授として2007年まで会計学を中心に講義された。ドイツ語がご堪能で研究室には数多くの原著論文が並んでいた。謹厳実直，かつ，決して他者のことを悪く仰らないお人柄で，若い教員たちの良き道標でもあった。

上野正男先生が和光経済でご健筆をふるっていたころ，本学に長くお勤めになった方が定年をお迎えになった。この時，上野正男先生が「長年のご献身に対して，私たちも礼を尽くすべきだ」と発議され，当該年の和光経済を「記念号」として出版することとなった。ついては，記念号の名称をどうするのかが検討された。

当初は「退官記念号」「御退職記念号」「ご定年記念号」など様々な発案があった。その内，編集委員の一人が「和光は私立ですから，退官は相応しくないのでは」と問い掛けた。すると，上野先生は「確かにそうです。来週までに，より良い名称を考えてきます」と仰った。

一週間後，上野正男先生が紙に書いて示されたのが「御退任記念号」であった。御退職やご定年といった文言を選択しなかった真意を若輩だった私がお伺いしたところ，「先生方は定年制度に従って大学での任を離れますが，仕事をお止めになるわけでありません」とのことだった。重ねて問うたところ，「研究者は定年で大学を離れたとしても研究を続けます。また，先生方は定年後も教育者であり続けます」とのご返答だった。あくまでも，退任であって，研究や教育は継続するのだとのお考えだった。

本日は上野正男先生のお考えに倣って，伊東達夫先生と上野哲郎先生に「御退任記念号」をお贈りすると共に，今後益々の研究と教育のご成果を祈念しているとお伝えしたい。あわせて，これからも両先生からご指導ご鞭撻を賜ることを心から願っている。

最後にあらためて両先生へご挨拶したい。伊東達夫先生，上野哲郎先生，これまで本当にありがとうございました。そして，これからもどうぞよろしくお願いいたします。

（2021年2月　加藤　巌　記）

和光経済　第53巻 第3号

2021年3月15日　印刷
2021年3月19日　発行

発行者　清水雅貴
制作　八千代出版
〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町2-2-13

発行所　和光大学社会経済研究所
〒195-8585　東京都町田市金井ヶ丘5-1-1